

平成 22 年 6 月 29 日

レポート：暮らしの中の証券市場

「投資信託」

投資信託のリスクについて

リスクとは金融用語では、投資の結果が不確実であることで、具体的にはリターンの振れ幅のことを指します。言い換えれば、平均からかけ離れること、ブレのこと、明日のことがわからないことです。リスクとリターンは表裏一体の関係にあり、ハイリスク・ハイリターン、ローリスク・ローリターンという傾向があります。

投資信託の値段のことを基準価額といますが、純資産総額を受益権総口数で除したものです。純資産総額は資産総額から費用などを引いたもので、資産総額のうち株式等の有価証券で上場されているものは終値で、非上場のものは時価評価をもとに算出されますので、基準価額は日々変動します。

基準価額に影響を及ぼす主な変動要因には価格変動リスク、為替変動リスク、信用(デフォルト)リスク、金利変動リスクがあります。

価格変動リスクは、投資信託が組み入れている株式や債券の価格が変動する可能性のことです。株価は最終的には市場における需給によって決まりますが、一般的に、国内及び海外の政治・経済情勢、企業の業績等の影響を受けます。

為替変動リスクは、外国の株式や債券で運用する外国通貨建ての資産に投資する投資信託の場合に、為替レートが変動する可能性のことです。一般的には円高になれば基準価額にマイナス、円安ならプラスの影響があります。

信用(デフォルト)リスクは、債券などを発行する企業が、財政難・経営不振などの理由により、利息や償還金をあらかじめ定めた条件で支払うことができなくなる可能性のことです。

金利変動リスクは、金利が変動する可能性のことです。一般的に、金利が上がると債券価格は下落し、金利が下がると債券価格は上がります。また、満期までの期間が長い債券ほど、金利変動の影響を大きく受けます。

リスクを小さくするために、一般的にとられる方法としては、資金を一つの金融資産にまとめて投資せず、値動きの異なるさまざまな資産に分散して投資する「資産の分散」、市場は短期間で見ると一時的な要因により大きく変動することがありますが、長期間で見るとこの変動リスクが小さくなる傾向がありますので「長期保有」、一回に全額を投資するのではなく、何回かに分けて投資したり、毎月一定額を積み立てるなどの方法で購入時期を分散させることによってリスクを小さくする「時間の分散」などがあります。

参考資料：

日本証券業協会証券教育広報センター「投資信託ガイド」（2009年度版）